

第四十五回
貴族院議會

信託法案外十一件特別委員會議事速記錄第一號

付託議案	條ニ對スル索引ヲ付ケテ置キマシタノデアリマス、此索引ノ方デ御對照下サイマスレバ法文其モノノ意味モ一通リノ	
信託業法案	御覽ヲ鼓ク事ニシマシテ其要領ヲ茲テ御説明申上ケマス、尙又御質問ニ應ジマシテ御答辯申上ゲタイト思ヒマス、先づ我國ニ於ケル信託ト云フモノガ如何ナル發達ノ状況ニアルカト云フコトヲ一言申上ル必要ガアラウト思ヒマス、我國ニ於ケル信託ト云フ事柄ハ信託業ノ發達殊ニ信託會社ノ發展ニ伴ヒマシテ信託ト云フ事柄モ急速ニ發達ヲ致シテ	
擔保附社債信託法中改正法律案	ル次第デアリマス、ソレデ我國ノ信託會社ハ亞米利加ノ信託業並ニ信託會社ト云フモノ、範圍ニ則リマシテ急速ニ發達ヲ致シテ來タモノト思ハレマス、亞米利加ニ於キマシテハ信託會社ト云フモノハ頗ル古イ沿革ヲ以テ非常ニ發達ヲ遂グ居ル次第デアリマス、其信託會社ノ營業ニ居リマス業務ト云フモノハ信託其モノ並ニ性質ハ信託デハナイケレドモ、信託業ニ附隨スルモノトシテ幾多ノ業務ヲ營ンデ居ル次第デアリマス、即チ信託其モノト信託ト云フ性質ハ無イケレドモ、信託會社ノ附隨業務トシテ營ム、此ニツガ信託業者ノ營ムモノトナッテ居リマス、之ヲ通俗ニ一言ニシテ信託業務ト云フコトニ申シテ居リマス、亞米利加ニ於キマシテハ信託ニ關スル根本ノ法律ト云フモノハ存シテ居ルノデアル、是ハ英吉利ノ系統ヲ受ケテ居ルノデアリマス、デ信託ニ關スル一般ノ法則方定フテ居リマスカラ、所謂信託業務ト云フモノ、中ニ信託ト云フ性質ヲ有スルモノト然ラザルモノトガ茲ニ包含セラレテ居ルト云フコトハ自カラ分カルノデアリマスガ、是ガ一概ニ信託業務ト云フ名稱ノ下ニ我國ニ輸入セラレテ信託會社業務トシテ茲ニ行ハレマスニ付テハ其業務一切ヲ之ヲ信託事務ト稱スルト云フヤウナ普通ノ用例ニナリマシテ、果シテ所謂信託ト云フモノト、其然ラザルモノト包含スルト云フコトハ、チヨット一見明瞭デアリマシ、又我國ニ於キマシテハ信託ト云フモノニ付テノ一般ノ法規ト云フモノガマダ完備シテ居リマセヌガ爲ニ我國ニ信託業務ト云フコトヲ申シマスレバ、果シテ如何ナルモノデアルカト云フコトニ付キマシテ、稍々其疑ヲ生ズルコトニナリマス、從テ信託ト云フモノ、觀念ガ頗ル曖昧ニナテ居ルト云フコトハ實際ノ事實デアリマス、サウシテ此ノ一般信託法ト云フモノ茲ニ制定致シマスルノハ、其一ノ目的ト致シマシテハ、所謂信託ト云フモノハドウ云フモノ	
不動産登記法中改正法律案	日本事件手續法中改正法律案	
所得稅法中改正法律案	相續稅法中改正法律案	
登錄稅法中改正法律案	印紙稅法中改正法律案	
臺灣銀行法中改正法律案	北海道拓殖銀行法中改正法律案	
委員氏名	委員長 伯爵兒玉 副委員長 菅原 子爵八條 石塚 岡田 男爵長松 男爵横山 男爵藤村 加太 橋本 倉知 小山 早川 安田 圭 鐵吉君 篤栗君 良平君 義朗君 邦憲君 三郎君 鐵吉君 健三君 千吉郎君 善三郎君 義文君	秀雄君 通敬君 隆正君 英藏君 良平君 篤栗君 義朗君 邦憲君 三郎君 鐵吉君 健三君 千吉郎君 善三郎君 義文君
○政府委員(池田寅二郎君) 司法次官ガ外ノ委員會ノ方へ ○委員長(伯爵兒玉秀雄君) ソレデハ開會イタシマス、政 府委員ノ説明ヲ求メマス	大正十一年三月十六日(木曜日)午後一時二十五分開會	

デアル、信託業務ト云フモノハ其信託ノ關係ヲ構成シ、信託ノ性質ヲ有スルモノ、茲ニ之ニ屬セナイケレドモ、信託會社ノ業務トシテ行クモノトノ二ツノ性質ヲ備ヘテ居ルモノデアルト云フコトガ判然ト相成ル、次第デアリマス、是モ我國ニ於テ信託ト云フモノ、法律關係ヲ明カニスル所ノ一つノ理由ニナルノデアリマス、ソレデ我國ニ於キマシテ信託ト云フモノガ法制上認メラレマシタノハ興業銀行法デアリマス、其後朝鮮銀行臺灣銀行北海道拓殖銀行ニ關スル法規ニソレ、信託ト云フコトハ出來テ居ルノデアリマス、唯信託業務ト云フコトガ掲ゲテアルダケデアッテ、其内容等ニ付テハ少シモ規定ハナインデアリマス、デ唯一つ信託ニ關シテ多少明細ノ規定ヲセラレマシタノハ擔保信託法デアリマス、是ハ社債權ニ擔保ヲ付シマスニ當リマシテ其擔保ノ名譽、全カラシムル爲ニ、擔保權其モノニ付キマシテ信託ノ法理ヲ、應用セラレルモノデアリマス、短期信託ト申シマシテモ擔保權ト云フモノニ限り信託デアリマス、一般ノ財産ニ關スル信託デハナインデアリマス、極ク一局部デアリマスケレドモ、其擔保權信託ニ關スル所謂擔保權ト云フモノヲ明示セラレタノデアリマス、信託、是ガ今日マデニ我國ニ於ケル信託トシテハ最モ明瞭ニ規定セラレタノデアリマス、是ハ特ニ擔保支拂信託ト云フ一つノ業務トシテ今日マデ發達シテ來タリツ、アリマス、其外法令ニ特ニ認メラレテ居ルモノハソレダケデアリマスカ、其他ノ關係ニ於キマシテ所謂信託業務ト云フモノハ是ハ頗ル最近發達シテ居ルノデアリマシテ、社會ノ數々頗ル多クアリマシテ、其資本金等ノ數モノ大藏省ノ方デ十分取調べガ付イテ居ルノデアリマス、頗ル多額ニ上、テ居ル次第アリマス、斯ノ如ク所謂信託業務、信託營業ト云フ方カラシテ、我國ニ於キマシテハ信託ト云フモノハ頗ル發達ヲシテ來テ居ル、併ナガテ信託ト云フモノハ法律上一種ノ特別ノ性質ヲ有シテ居タク、我國ノ在來民法商法等ニ規定致シテ居ル所トハ一種異タ法律上ノ性質メルト云フコトガ、是ガ一ツノ必要ナコトデアリマス、ソレヲ有シテ居ル財產制度デアルニ拘ラズ、其一般法制ト云フカラ只今申シマンシタノハ信託營業ニ付テノコトデアリマシタガ、營業ノ關係ノ法規ニ於キマシテモ信託ノ性質ヲ持テ居リマス事柄ハ既ニ我國ノ社會ニ於キマシテ頗ル色々ノ關係ニ於キマシテ行ハレテ居ルヤウニ思ハレル、例ヘバ或國

云フ場合ニハトウシテ多數ノ名義ニテル
不便デアルカラ、所謂會長デアルトカ、其他ノ代表者ノ意味ヲ以テ其財産ニ付テハ、例ヘバ不動産ナラバ登記ヲスル、或ハ銀行ニ預金ヲスル、其名義ハ矢張リ其代表者ノ名義ニスル併シ代表者ノ固有ノ私有財産デハナイ、所謂ソレハ學會ナラ學會、俱樂部ナラ俱樂部ノ一ツノ財産デアル、云フコトハ頗ル多イノデアリマシテ、其外新聞雜誌等ニ常ニ出テ參リマス關係デアリマスガ、色々ナ目的ノ爲ニ寄附金ヲ募集スル、其募集シタ寄附金ハ其目的ノ爲ニ之ヲ使用スル、使用スル迄ノ間ト云フモノハ發起人ナリ其他主催者ノ名義ヲ以テ之ヲ銀行ニ預ケテ置クト云フコトハ常ニ行ハレテ居ルヤウナ次第デアリマス、此場合ニモ矢張リ其代表者ノ名義リナッテ居リマスケレドモ、代表者ガ自ラ勝手ニ使テモ宜イト云フ財產デハナイコトハ是ハ明デアル、其外又色々ノ都合ヨリ致シマシテ、自分ノ財產ヲ自分ノ名義ニシテ置カナイデ、之ヲ他人ノ管理名義ニ移シテ、サウシテ管理ヲ託スルト云フ例ハ是ハ頗ル多イコトデアリマス、必シモ其場合ニ財產ヲ隠匿スルト云フヤウナサウ云フ惡イ意味ノモノデナク、當リ前ノ意味ヲ以テ、自分ノ名義ニシテ置クヨリモ之ヲ管理者ノ名義ニ移シテ管理セシムルガ適當デアルト云フコトガ行ハレテ居ルヤウナ次第デアリマス、或ハ又或友人ガ亡クナリマシテ、其遺族ガ大變困窮ラヌルト云フ場合ニ生前ノ友達が集リマシテ金ヲ集メル、サウシテ之ヲ今直ニ其遺族ニ與フルト云フ事ハ都合上不便デアルカラ之ヲ或期マデハ、或代表者、發起人デ保管シテ置テ、サウシテ其時期ガ來タナラバ其時之ヲ渡スソレ迄ノ間ハ之ヲ適當ニ利殖シテ、其益金ト云フ者ヲ其子供ナラ子供ノ教育費ニ充テルトカ、或ハ生活費ニ充テルトカ云フ様ニ致シマスル例ハ是ハ頗ル多イ様ナ様デアリマス、其場合ニモ其財產ト云フモノハ發超人ノ名義ニシテ置クケレドモ、決シテ發起人ノ者デハナオイ、法律上ハ發起人ノモノデアルケレドモ、其目的ト云フモノハ矢張其遺族ニ之ヲ與フルト云フ目的デハアルノデアル、ソレカラ又はハ今日普通ニ困テ居ル一つノ例ニアリマスカラ相當資金アル者ニシテ俄ニ當主ガ亡クナリマシテ、遺族ガ極クマダ十分ニ財產ヲ管理スル所ノ能力ハナオイ、或ハ子供ガマダ頗ル若イ又未亡人デ多クノ財產ヲ管理スルト云フコトハ困難デアルト云フヤウナ状況ノ生ジマスルコトハ多クアルノデアリマス、デ斯ウ云フ場合ニ此信託方法ヲ以テ財產ヲ管理ヲ託シテ置イテ、サウシテ例ヘバ其相續人ガ獨立ラシテ家ノ支配ガ完全ニ出来ルヤウニナルマデ適當ナル信託會社ニ之ヲ託スル、或ハ自分

ノ親友ニ之ヲ託シテ置クト云フコトヲ以テ財産ノ管理ヲナサシムルト云フコトニ致シマシタナラバ餘程今日ニ於テ多ク存在シテ居リマス所ノ當主が死亡シテ、後ト財産ノ管理ト云モノヲ安心シテ安全ニ之ヲ託スルノ途ヲ茲ニ開カレルト云フコトニアラウト思ヒマシテ、是等ノコトニ付キマシテハ、此信託ノ制度ガ一旦認メラレマシタナラバ頗ル效用ガ多イコトニアラウト思フノデアリマス、是等ノコトハ此營業ト云フヤウナ關係外ニ於キマシテモ頗ル今日行ハレテ居ルノデアリマス、デ大體ヲ申シマスレバ、今申上ダタヤウナ狀況デ、我國ニ於キマシテハ此信託ノ實際ト云フモノハ隨分アル、而シテ信託會社ノ事務發展ニ伴ヒマシテ益々此信託ト云フモノ、範圍モ擴ガルト云フ傾向ガアル、而シテ之ヲ擴ガルト云フコトハ又頗ル效用ノアルコトニアラウ、殊ニ有力ナル信託會社ガ出來マシテ、サウシテ確實ニ此財產ヲ管理スルト云フコトニナリマシタナラバ頗ル社會上有益ナコトニアラウト思フノデアリマス、所ガ前ニモチヨット申シマシタヤウニ、信託ノ法律關係ト云フモノハ一種ノ特別ナモノニアリマシテ我ガ民法、商法等ニ於ケル財產ノ規定ヲ以テ當事者ノ關係ヲ律スル事ハ十分デナイデアリマスカラ此際此信託竝ニ信託業發展ノ機運ニ際會シテ參リマシタ時ニ於テ此信託ノ根本ノ法律關係トモ云フモノヲ明確ニ致シマシテ、サウシテ此當事者ノ権利義務ノ關係ヲ明瞭ニ定メ、サウシテ其利益ヲ適當ニ保護イタシ、デ一旦信託ヲスレバ其信託ト云フモノハ完全ニ其目的ヲ達スルナウニ法律上之ニ保護ヲ與フルト云フコトハ極メテ緊要ナコトニアルト云フ事ニ認メラレルノデアリマス、ソレ等ノ事ヨリ今回信託法ノ立案ヲ致シタヤウナ次第デアリマス、次ニ信託ニ關スル現行法ノ狀況ヲ一言申シマス、只今申シマシタ中ニ殆ド盡シテ居リマスガ、モウ一應摘要シテ置キマス、信託ニ關スル現在ノ法規ハ甚ダ少ナインデアリマシテ、前ニ申シマシタ此與業銀行法、北海道拓殖銀行法ニ信託ト云フコトガ出テ居リマス、ソレカラ營業稅法ニモ此信託業ト云コトニ營ム所ノ所謂信託會社ニ付テノ規定ヲモ合セテ定メテ居リマス、即チ信託ノ實體ノ關係竝ニ事業ノ實行ニ關スル規定、此一ツヲ併セテ規定シテ居ル、此擔保付社債信託法ガアルダケデアリマシテ、又其擔保付社債法ニ付キマシテハ其ノ業務ヲ營ム所ノ所謂信託會社ニ付テノ規定ヲモ合セテ定メテ申シマシタ通リニ單純ニ擔保權ノ信託ト云フコトダケデアリマシテ、此信託ト云フモノハ一般ノ財產權ニ關シテ開ク制度ニアリマス、其ノ方カラ申セバ極ク一局部ニ限局シタ部分デノ信託ヲ取敢ズ規定セラレテ居ルト云フニ過ギナイ

ノデアリマス、今回提案イタシアリマス信託法ト云フモ
ノニ比シマスレバ、極ク一小部分ノ規定ニ過ギナイノデア
リマス、斯ウ云フ状態デアリマシテ茲ニ信託法ト云フモノ
ガ成立ラシタ場合ヲ考ヘマスレバ、即チ本案ト云フモノガ
法律ニカリマシタ場合ヲ考ヘマスレバ、本案ノ目的トスル
ル所ハ、信託ノ法令的ノ、即チ民法的ノ法律關係ヲ決メ、權
利義務ノ關係ヲ定メルト云フガ目的デアリマス、法令ノ一
般方針デアリマス所ノ民法ニ、之ヲ對照シテ見レバ、其特別
法ト云フ所ニ立ツ譯デアリマス、ソコデ今回大藏省ノ御提
案ニナシテ居リマス所ノ信託業法ト云フモノニ、之ヲ對照イタ
シマスレバ、信託業法ハ此信託ノ引受ヲ業トスル場合ニ於
キマシテ、其業ニ關スル特別規定ヲ設ケテ居ル所カラ見マスレ
バ、信託業法ト云フ者ガ、信託法ノ一つノ特別關係ニ立ツ者
ト云フ事ニナルノデアリマス、ソレカラ擔保附信託法ト、本
シテモ、多少ノ特別規定ガ設ケラテ居ルノデアリマス、此
案トノ關係ヲ言ヒマスレバ、擔保附信託法ト云フ者ハ、前ニ
申シマシタ通り擔保權ト云フノミニ付テノ信託デアリマス、
本案ハ財產一般ニ付テノ信託ヲ規定スルノデアリマスカラ
擔保附信託ト云フモノハ、本案ニ對スル又特別關係ニ相成ル
次第デアリマス、即チ此度提案イタシマシタ信託法案ハ信
託ニ關スル權利義務ニ付テ一般的ノ規定ヲ設ケルト云フモノハ
ガ、其趣旨ニ相成ルノデアリマス、ソコデ第三ト致シ
マシテ、此本案ニ於テ執ツテ居リマス所ノ信託ト云フモノハ
如何ナルモノデアルカ、例ヘバ其信託ノ目的ト云フモノハ
何デアルカト云フコトヲ簡單ニ申上ゲタイト思ヒマス、一
體此信託ト云フモノハ財產制度デアリマス、財產以外ニ色
民法上ノ權利義務ガアリマスガソレハ信託ノ目的ニハナ
ラナイノデアリマス、全ク財產ノツノ制度デアリマス、ソ
コデ此一番簡單ノ場合ヨリ段々想像ヲ致シマスレバ、茲ニ
或財產ヲ持ツテ居ル者ガアル、此所有者ガ其財產ヲ自分デ處
分スル、自分デ管理ヲスルト云フコトハ、是ハモウ當リ前ノ
事デアリマス、處ガ自分デソレヲ處分スルヲ不便ナリトシ
他人ヲシテ管理處分ヲナサシムル途ガアル、之ヲ民法ノ規
定ニ依リマスレバ、代理ト云フ事ガアル、即チ他人ニ代理ヲ
セマシテ、サウシテ自分ノ財產ヲ管理ト云フ者ヲ置キ、處
分ヲナサシムルト云フ事ハ出來ルノデアリマス、其場合ニ
代理人ト云フモノハ、財產其者ノ所有主デナイケレドモ、代
理權ガアル、即チ委任狀ガアリマス以上ハ、恰モ自分ガ本人
デアルカノヤウニ、本人ニ屬スル所ノ財產ヲ管理處分スル
コトガ出來ル、斯ウ云フ關係ニナルノデアリマス、是マデハ
代理人ト云フモノハ、財產其者ノ所有主デナイケレドモ、代
理權ガアル、即チ委任狀ガアリマス以上ハ、恰モ自分ガ本人

ノデアリマス、處方尙ホ一步ヲ進エマシテ、單ニ管理處分ノ
權限ヲ與ヘルニ止マラズシテ、財産權其者ヲモ對手方ニ與ヘル、與ヘル
直ニ與ヘル、權利ノ名義其者ヲモ對手方ニ與ヘル、與ヘル
ガ、併シ是ハ一ツ自分ノ爲ニ管理シテ貰ヒタク、斯ウノ云
權限ヲ與ヘルニ止マラズシテ、財產權其者ヲモ對手方ニ之ヲ
當ニ處分ヲシテ、ソレヨリ生ズル所ノ收入ヲ以テ自分ノ友
フ目的ノ爲ニ管理處分ヲシテ貰ヒタク、例ヘバ是ダケノ
人ノ子供ノ何ノ某ト云フ者ノ學費ニ充テ貰ヒタク、而シ
公債證書ノ權利ヲ御前ニ移轉ヲスル、其公債證書ト云フ
モノヲ御前ノ物ニスル、併ナガラ此公債證書デ以テ之ヲ適
モコトデアリマスレバ、其委託ヲ受ケタル者ガ單ニ本人ニ
テソレガ學校ヲ卒業シタナラバ、其時ニ残テ居タ所ノ財產
全部ヲ其者ニ與ヘテ貰ヒタク、斯ウ云フコトヲ託スルト云
属シテ居リマス所ノ公債證書ノ管理處分ノ權限ヲ貰ヒタク
云フニ止マラズ、公債證書自身ヲ貰ヒタク、公債證書自身ヲ貰
タクガ、併ナガラ自分ノ爲ニ貰タクノデナイ、是ハ委託者ノ命
ジタ所ノ趣旨ニ従テ、友人何ノ某ノ子供ノ學費ニ之ヲ與ヘ
ル、ソレガ卒業シタナラバ、其時ニ残テ居タ所ノ財產ヲ擧
ゲテソレニ與ヘヌケレバナラヌ、自分ハ其財產ヨリ生ジタ
アル所ノ利益ヲ受ケルノデナイ、サウ云フ關係ガ生ズルノデ
アリマス、サウ云フ關係ガ生ジマシク時ニハ、此財產ヲ與ヘ
タル者ハ、即チ受託者ト云フ、其財產其者ヲ、即チ信託セラ
レタル財產其者ヲ信託財產ト稱シテ居ル、ソレカラ其信託
財產ノ處分ニ依テ利益ヲ受ケル、即チ其場合ニハ友人ノ子
供ニ與ヘル、其子供ヲ受益者ト稱スルノデアリマス、即チサ
ウ云フ關係ニ於テ茲ニ信託ト云フモノガ成立ツノデアリマ
スルカラ、信託ハ之ヲ一面カラ申シマスレバ、所謂信託財產
……公債ノ信託財產ヲ受託者ニ移轉ヲ致シマシテ、受益者
ノ爲ニ之ヲ管理處分セシムルト云フコトニナル、又之ヲ受
ケタル其事柄ヲ考ヘマスレバ、受託者ト云フ者ガ信託財產
上ノ権利ヲ享有シ、即チ自分ノ物ニシマシテ、サウシテ之ヲ
受益者ノ爲ニ管理處分セシムルト云フ義務ヲ負フト云フ關係
ニナルノデアリマス、ソレデ是ガ即チ此信託ノ關係デアル
ノデアリマシテ、即チ信託ノ場合ニハ信託財產ト云フモノ
ハ、詰リ此受益者ノ物ニナル、併ナガラ是ハ受益者ノ爲ニ一
ツノ目的ニ従テ管理處分ヲスルト云フ義務ヲ負フト云フ關係
マスカラ、隨ヒマシテ自分自身ガソレニ依テ經濟上ノ利益
ヲ受ケル所ノ性質デナイン、ソコデ信託財產上ノ権利ハ受益
者ガ持ッテ居リマスケレドモ、ソレヨリ生ズル所ノ利益ト云
フモノハ、之ヲ受益者ニ舉ゲテ與ヘナケレバナラヌ、又其管
理處分ニ付テハ委託者ノ命ニ従ウシナケレバナラヌト云
フ制限ガアルノデアリマス、此關係ニ生ズル場合ニ、之ヲ信
託ト申スノデアリマス、デアリマスカラシテ財產ノ管理處
分ヲ委託シマシタ場合ニ於キマシテモ、財產ノ權利名義ノ

關係マデ、其管理委託ヲ受ケルモノニアラズ、ト云フ場合デアレバ、信託デナインデアルカラ、其場合ニハ代理ノ關係ヲ生ズルニ止マトル思フノデアリマス、ソレカラ又此財産權ノ移轉ヲ以テ其目的トシ、其財産權ノ管理處分ヲナスヲ以テ目的トスルノデアリマスカラ、身分上ノ権利關係ノ如キ、或ハ財產權ニ基カザル所ノ事務ヲ託シヤウト云フト、茲ニ執ツテ居リマス所ノ信託トハ申セナインデアリマス、ソレデ斯ニ、其債務ト云フモノガ發生シテ居ルト云フコトガ、是ガ信託ノ觀念トシテ茲ニ取シテ居ルヤウナ次第デアリマス、ソコヲ此信託ノ目的ト云フモノハ、是ハ別ニ法律上何等制限ヲ致シテ居ラナイノデアリマズ、公ケノ秩序善良ノ風俗ニ反スル所謂公益ニ害ノアルヤウナコトデサヘナケレバ如何ナル事項ヲ目的トシテ信託ヲ設定スルノモ差支ヘナインデアリマス、デ不法ナ目的ヲ以テ信託ヲナシマシタ時ニハ、是ハ民法ノ規定ノ當然ノ勘キトシマシテ、是ハ無効ト相成ル矢張リ一定ノ目的ト云フ中ニアルノデアリマスカラ、別ニノデアリマス、即チ信託法案共モノニ付テハ、其點ニ付テハ特別ノ規定ハ置イテ居ラヌノデアリマス、唯一二三ノ點ニ付キマシテ法律ヲ潜ルヤウナ信託ニ付キマシテ、制限規定ヲ置イテアリマスノデアリマス、其委細ノコトニ付テハ更ニ次ノ機會ニ於テ御説明ヲ申上ゲルコトニ一致シマス、ソレカラ信託ト云フモノハ、財產上ノ権利マデモ受託者ニ移シマシテ、受託者其モノガ其權利ヲ濫用イタシマシタ時、即チ財產權ノ名義ハ自分ニナッテ、法律上ハ自分ノ権利デアルケレドモ、此権利ヲ濫用シマシテ、サウシテ信託ノ目的ニ反スルト云フヤウナコトヲヤリマシタ場合ニ於テ、法律デ受託者ノ権利ヲ保護スルト云フコトハ是ハ頗ル必要ナコトニナルノデアリマス、又之ヲ保護スルガ爲ニ取引ノ安全ヲ害スルト云フコトニナリマシテハ、是亦大變ニ受益者ニ偏シテ居ルト云フヤウナ批難ハ免レナノデアリマス、其他ノ關係ヲ考慮イタシマシテ、適當ニ権利ヲ保護スルト云フコトハ極メテ必要ナモノデアリマスカラ、ソレデ共位信託法ノ一ツノ重要ナル條項ト致シマシテ、信託財產、竝ビニ信託財產ノ保護ト云フモノハ是ガ一ツノ重要ナル事項ニナルノデアリマシテ、デ之ニ關シテ幾多ノ規定ヲ設ケマシタ次第テヨ

ザイマス、先づ信託財産即チ信託シテ委任セラレタ所ノ財産、其財産ト云フモノハ是ハ「ツノ資産ヲ爲ス」「アンド」ト申シマスカ、資産ヲ構成スル、即チ先ノ例デ申スト公債ヲ信託スルト云フコトハ例ヘバ「一万圓デアリマスト、此「一万圓ト云フ資産ヲ構成スル、ソレデ其財産ト云フモノハ先づ信託セラレマシタ當時ノ形ハ公債デアル、併ナガラ此公債ト云フモノヲ是ハ處分ヲスル、處分シマスレバ代價ト云フモノハ茲ニ起ル、是ハ金錢デアル、此金錢モ矢張リ信託財產デアッテ、形ハ變リマシテモ元ノ「ファンド」ト云フモノ、變形デアル、是ハ信託財產デアル、例ヲ申シマスレバ茲ニ建物ヲ信託シテ居ル、建物ハ信託財產デアッテ、例ヘバ其建物ヲ賣却シタナラバ其代金ハ信託財產デアル、若シ此建物ガ不幸ニシテ焼ケタ場合ノ、保險ガ付キテ居レバ保險金ト云フモノハ信託財產デアル、何所マデモ元々信託シマシタ所ノ一万圓ノ財產ト云フモノ、形ハ變リマシテモ財產ガアルト云フコトヲ認メラレル以上ハ何所マデモ信託財產ト云フコトニ相成ル次第デゴザイマス、此信託財產ト云フモノハ是ハ今申シマシタヤウニ、受託者ノ自己ノ爲デハナニ、一ツニ受益者ノ爲ニ信託ノ目的ニ之ヲ使ハナケレバナラヌ、性質ノモノデアリマスカラ、受託者ガ自分ノ債務ノ爲ニ差押ヘラ受ケルト云フコトヲナインシシナケレバナラヌデ、是ハ「ツノ重要ナル事項デアルノデアリマス、併ナガラ如何ニ信託財產ト雖モ、信託財產ノ管理處分ヨリ生ズル債權ノ爲ニハ是ハ差押ヘナケレバナラヌノハ當然ノコトデアリマス、例ヘバ今ノ例ヲ出シマスガ其家ノ修繕ヲ託スト云フ場合ニ大工ニ對シテ修繕料ヲ拂ハネバナラヌト云フ此債權ガ之ハ其家ニカカッテ返済ヲ受ケベキ性質ノモノデアルカラ、即チ信託事務ノ處理ニ依テ生ジタ所ノ債權ナラバ、是ハ差押ヲ致スモ宜シイ、併シ信託關係外ニ於テ是ヨリ受益者ガ債務ガアル、固有ノ債務ガアル、ソレヲ信託財產デ拂フコトガ出來ナイカラ、從フテ債權ニ基イテ差押ヘラルコトハ出來ナイト云フコトニナシテ居ルノデアリマス、デスカラ又此關係ハ恰モ家族世襲財產ニ於ケル類似ノ點デアルノデアリマス、ソレカラ此信託財產ト云フモノハ受託者ノモノニナシテ居リマス、法律ノ規定ニ従ヘバ受益者ノ爲ニ之ヲ管理處分シナケレバナラヌ、管理處分ノ方法ト云フモノハ委託者ガ定メタ所ニ従ハネバナラヌト云フコトニナシテ居リマスガ、是ハ不法ニ處分スルコトガナイトモ限ラヌ自分ノ財產ニナシテ居リマスカラサウ云フ法律上竝ニ信託上ノ

義務ニ背キマス如キ處分スルト云フコトモナイトモ限ラナ
イ、其處分サレルコトモ仕方ガナイト云フコトガアルト信
託ノ目的ヲ達スルコトガ出来ナイ、デアルカラ其場合ニ其
處分ヲ受益者ノ方カラ取消スコトガ出来ルト云フコトニシ
テ信託財産ヲ元通りニ取戻スト云フ途ヲ開イテ居ルノデア
リマス、所ガ無條件ニ許スト云フコトデアリマスレバ、受益
者ヨリ其財産ヲ委託サレタモノハ如何ニモ窮屈デアルト云
フコトニナルノデアリマス、ソコデ此信託ノ關係ト云フモ
ノハ之ヲ行使スルノ必要ガアル、デアリマスカラ、不動産デ
アリマスナラバ、之ヲ登記スルト云フコトガ特ニ必要デア
ルノデアリマス、デ或ハ此有價證券等ニ付キマシテハ其信
託ノ旨ヲ之ニ記入スルト云フコトモ一ツノ方法ニナ、テ居
ルノデアリマス、サウ云フ風ニ信託ノ公示ヲ致シ、サウシテ
第三者ヲシテ不測ノ損害ヲ受ケシムルコトノナイヤウニ保
護スル、ソレニモ拘ラズ、買取シタト云フヤウナ場合ニ、矢張
リ其買取タ者ガ取戻サレテ損失ヲ蒙ッテ仕方ガナインレカ
ラ公示方法等ノナイモノニ付キマシテハ、是ハ信託財産デ
アッテ、受託者ガ勝手ニ處分スルコトガ出来ナイモノデアル
ト云フニモ拘ラズ、受託者ガ之ヲ不法ニ處分スル、其情ヲ知
リマシテ之ヲ受託者ヨリ買受けタル場合ニハ、之ニ對シテ
モ取消シガ出来ル、是ハ惡意デアリマスカラ取消ヲ許スコ
トニ致シマスレバ、第三者ヲ不當ニ害スルト云フコトハナ
イ、デアリマスカラソレ等ノ場合ニハ之ヲ取消シテ信託
會社ヨリ取戻シ、惡意デ以テ信託ノ處分スヘカラザル事ヲ
知ラシメ、其處分スルト云フコトノ情ヲ知、テ買受けマシタ
場合ニハ、之ニ對シテ取消ヲ爲サシムル、信託ノ公示アル場
合ニ付テハ、其公示アルニ拘ラズ之ヲ買受けタト云フ場合
ニハ之ヲ取消サントシテ、是等ノコトデ以テ不當ニ信託財
産ヲ買受けラレタ者ノ権利ヲ害スルト云フコトヲナカラシ
メマシテ、サウシテ或ル程度ニ於テ此信託財産ト云フモノ
ヲ保護シテ、信託財産取戻シト云フ途ヲ開イタノデアリマ
ス、是ハ信託財産ノ保護ニ關スル一つノ重要ナル點デアル
ノデアリマス、ソレカラ次ニハ信託ノ方法ヲ濫用イタシマ
シテ財産ヲ隠匿スルト云フ様ナ事ガアッテハ、是レ亦信託法
制定ノ趣旨ニ反スルノデアリマスカラ、自分ガ債務ヲ澤山
負擔シテ居リナガラ財産ヲ隠匿スル爲ニ財産ヲ他ニ信託シ
テ仕舞フト云フヤウナ弊ヲ防ギマスル爲ニサウ云フ場合ノ
債權者ノ保護ヲ厚ク致シマスル目的ヲ以テ、民法ニ於ケル
ニ規定ヲ設ケテ居ルノデアリマス、ソレ等ガ先づ信託ニ付
キマシテ重要ナル法律ノ關係ノアル點デアルノデアリマシ

タ、其他受託者ノ権利義務、資金、等ニ付キマシテモ詳細ナ
規定ヲ設ケマシタ次第デアリマス、ソレカラ次ニ信託ニ關
係スル場合ニアリマシテハ、長イ期間ニ亘ル事モアリマス、
先程申上ゲマシタ例ノ中ニモ想當長クナリサウニ思ハレル
モノモアルノデアリマス、所ガ受託者ガ其目的未ダ完了前
ニアツテ死亡スル様ナ事モアリマセウ、或ハ色々ナ事情カラ
致シマシテ、ドウシテモ其信託ヲ止メナケレバナラヌ、受託
者タル地位ヲ退カナケレバナラヌト云フヤウナコトモ隨分
アルノデアリマス、ヨク會ノ會長ガ受託者デアルヤウナ場
合ニ於キマシテハ、會長ト云フ資格ノ下ニ受託者トナツテ居
ル、規則上サウナツテ居ル、所ガ會長ヲ辭任シタガ爲ニ信託
ノ受託者クルコトヲ止メナケレバナラヌト云フヤウナコト
ガ生ジテ來ルコトモアル、サウ云フヤウナ場合ニ色々ナ關
係カラシマシテ、信託ハ未ダ自的ヲ完全ニ達シナイ間ニ受
託者ト云フモノガ缺員ヲ生ズル、ナクナツテ來ルト云フヤウ
ナ場合ガアリマス、其場合ニハ新ニ之ニ代ル所ノ受託者
ト云フモノヲ選任イタシマスル方法ヲ構ズルコトガ、是ハ
最モ必要デアリマスカラ、受託者ガ死ヒシマシタヤウナ場
合ニハ、勿論其相續人ヲシテ之ニ代ラシムルト云フヤウナ
性質ノモノデナイ、ドウシテモ其本人ノ信用スルノデアルカ
ラ、其子供ガ當然之ヲ引繼グト云フ性質ノモノデハナイ、民
法ノ委任ニ於キマシテモ一方ガ死亡スレバ消滅スルト云フ
コトニナツテ居リ、委任以上ニ財産ノ名義マデ之ヲ渡シテ委
託管理セシムルト云フ事ナ關係ノモノデアリマスカラ、其
人方死亡スレバ相續人ニ之ヲ換ムト云フ意思ハ無論ナイ、
デアリマスカラサウ云フ場合ニ於キマシテハ矢張リ他ノ者
ヲシテ之ニ代ラシムナケレバナラヌト云フコトガ起テ參
ルノデアリマス、茲ニ於キマシテ新受託者ト云フモノハ如
何様ニシテ之ヲ選任スルカト云フ事ニ付キマシテモ諸多ノ
規定ヲ設ケテ、其新受託者ト云フモノガ茲ニ出來テ參リマ
スレバ、其全體ノ財産ヲ始メ、前任者トノ既定ノ關係ニ於テ
生ジテ居リマシタ所ノ權利義務ヲ、之ヲ新任者ト云フモノ
ガ引繼グコトニ付キマシテモ、承繼セシムルニ付キマシテ
モ、諸多ノ規定ガ入用ナ次第デアリマス、之ニ付キマシテモ
色ミノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、ソレカラ信託ノ監督
ニ付キマシテ、只今申上ゲタヤウニ信託ト云フモノハ隨分
種々ノ關係ヲ生ジテ參リマスノデ、當事者ノ利害ニモ餘程
重要ナル關係ヲ生ズル次第デアリマスカラ、此信託ノ監督
ト云フモノニ付キマシテ特別ノ規定ヲ設ケル必要ガアリマ
ス、普通ノ信託ニ於キマシテハ裁判所ガ之ヲ監督スルト云
フコトニナツテ居リマス、其監督ニ關スル規定ヲ設ケテ居ル
ノデアリマス、又公益ヲ目的トスル所ノ信託ニ付キマシテ
ハ、其事業ノ種類ニ從ヒマシテ、或ハ學校デアルトカ、或ハ

宗教團體デアルトカ、其他色々ノ種類ニ從ヒマシテ、各主務官廳デ以テ之ヲ監督スルト云フコトニ致シテ居ル次第アリマス、是等ノ點ニ付キマシテモ相當ノ規定ヲ設ケテ居リマス、大體信託法案ノ内容ノ要點ハ只今申上ゲマシタヤウナ次第アリマス、尙ホ詳細ニ付キマシテハ御質問ニ應ジテ御回答申上ガルコトニ致シマス、ソレカラ不動産登記法ノ改正ハ、是ハ茲ニ信託法ト云フモノガ新ニ出來マシタノデ、之ニ付キマシテ登記ノ制度ヲ設ケマシタ次第デアリマス、大體ハ當事者ヨリ信託ノ要領ト云フモノヲ書キマシタ書面ヲ出サセマシテ、而シテソレヲ登記所ニ取置キマシテ、ソレヲ整理イタシマシテ、一面個々ノ不動産ニ付テハ其信託ノ登記ト云フモノヲ簡單ニ致シマシテ、詳細ノコトハ其取置イタ所ノ書面、之ヲ信託原簿ト稱シテ居リマス、其書面ト云フモノニ對照シテ見レバ其關係が解ルヤウニ、極ク簡單ニ相成ツテ居リマス、ソレカラ非訟事件手續法ノ方ハ、只今申シマシタ通リニ信託事務ノ監督ヲ裁判所ニ屬セシムルコトニナリマシタノデ、其裁判所ノ監督、管轄、其他ノ點ニ付テ二三ノ規定ヲ設ケマシタニ過ギナインデアリマス○政府委員(黒田英雄君) 私カラ信託業法ニ付キマシテ、業法ヲ提案イタシマシタ趣意竝ニ是等ノ規定ニ付キマシテ大體ノ御説明ヲ申上ゲタイト忠フノデアリマス、信託業法ヲ提案イタシマスル所ノ理由ニ付マシテハ義基ニ本議場ニ於キマシテ大藏大臣カラシテ說明ヲ申上ゲタノデアリマス、近頃御承知ノ通リニ我ガ國ニ於キマスル所謂此信託業ト云フモノノ發達が著シイノデアリマシテ、是ハ日露戰爭以後漸次増加スルヤウニナッテ參タノデアリマスガ、殊ニ大正七八年頃カラ致シマシテ非常ニ増加イタシマシタ、尙ホ資本モ大ナルモノガ出來テ參タノデアリマシテ、今日所謂信託業者ト云フモノハ其數ガ五百十四ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ勿論本質ニ於キマシテハ大藏省ニ於キマシテ信託會社ニ對スル監督權ト云フモノヲ有ッテ居ラナイノデアリマスルカラ、詳細ナル調査ハ困難デアリマシテ、十分正確ト云フコトハ申上ガルコトハ出來ナイノデアリマスガ、大體五百十四アリマス、其中會社組織ノモノガ四百八十七、會社ノ資本金ガ三億四千七百餘万圓ト云フヤウナ次第アルノデアリマス、サウシテ段々大資本ノモノガ年ヲ追フテ其數ヲ増シテ來テ居ルヤウナ狀況ニアルノデアリマス、其信託會社ノ目的ト云フモノハ先程司法省ノ政府委員カラ申上ダマシタ通り信託ノ引受ケト云フコトヲ營業トシテ居ルノデアリマス、此信託ト申シマスルモノハ所謂社會ノ靜的資金ト申シマスカ、普通ニ銀行等ノ資金ノ如キ活動シテ居ラヌ所ノ資本ヲ或ハ株トカ、工場資金ト云フヤウナモノニ管理運用イタシマシテ、之ヲ社會ニ活動イタシマスル所ノ資本

化スルト云フ効キヲ有ッテ居ルノデアリマス、或ハ自分デ財産ヲ管理スル能力ノナイトモノ、即チ年ノ若イ所ノ孤兒デアルトカ、子供デアルトカ、或ハ寡婦デアルトカ云フヤウナ自カラ之ヲ運用管理スル所ノ能力カラ有ッテ居ラヌモノ、サウ云モノニ代ッテ是ガ安全ニ、有利ニ管理運用スル、或ハ自カラ其力ヲ有ッテ居リマシテモ之ヲ爲ス所ノ暇ノナイヤウナモノノ爲ニ代ッテ之ヲ管理運用スルト云フ風ノ使命ヲ有ッテ居ルモノノデアリマシテ、即チ社會ニ活動シテ居ラヌ所ノ資金ヲ經濟的ニ活動サセルト云フコトノ結果ニナルノデアリマシテ、將來我ガ國ニ於キマシテ相當ニ發達シテ行クベキモノノグラウト云フ考ヲ有ッテ居ルノデアリマス、ソレ故是等將來堅實ノ發達ヲサセルト云フコトニ付テ十分ニ考慮スルト云フコトハ非常ニ國家ノ急務デアラウト考ヘルノデアリマス、殊ニ今日我ガ國ニ置キマスル所ノ信託業者ノ狀況ヲ見マスト云フト隨分其數ハ増加シテ參テ居ルノデアリマスケレドモ、其業務ノ實際ヲ見マスト云フト非常ニ廣汎ナ色ミナ仕事ヲイタシテ居リマシテ必ズシモ前申上ゲマスル如キヤウナ所謂本統ノ信託ト云フモノノ引受ケテ業トシテ、其使命ヲ全フルト云フヤウナ効キヲ致シテ居ルト云フコトガ出來ナイモノガ隨分多々アルノデアリマス、ソレノミニナラズ此實際ノ狀態ヲ見マシテモ必ズシモ堅固デアフテ、確實デアルト云フコトヲ申スコトガ出來ナイモノガ隨分多クアルヤウニ見エルノデアリマス、左様ナモノハ所謂他人ノ信認ヲ受ケマシテ財產ヲ預ッテ仕事ヲシテ行クト云フコトニハ極メテ不適當デアル、非常ニ危險デアルト言ハナケレバナラナインノデアリマス、ソレ故隨分此信託ト云フ新シキ美名ノ下ニ隠レテ隨分色ミナ仕事ヲシ、或ハ銀行ニ類似ノ仕事ヲスル、銀行ハ御承知ノ通り一方ニ相當ナ監督ヲ受ケテ居ルニモ拘ラズ何等ノ監督ヲ受ケズシテ銀行類似ノ仕事ヲシテ居ルト云フ風ナモノ隨分出來テ來タノデアリマス、又ソレ等ノ資金ヲ放慢、無節制ナ業務ニ用キマシテ、隨分經済界ニ惡イ影響ヲ及ボスト云フコトモアルノデアリマス、或ハ横領等ノ罪ヲ犯シテ居ル者モ實例ガアルヤウニ見エルデアリマス、中ニハ其場所ヲ常ニ轉ジテ或ハ其名前ヲ屢々變ジテ、サウシテ其義務ノ履行ヲ怠ル、ト云フ風ナモノモ隨分アルノデアリマス、サウ云フ狀態デアリマスルト云フト一方ニハ社會ガ安心ヲシテ自己ノ資產ヲ信託スル者ハナノコトニナルノデアリマシテ、從テ此信託ノ引受ケラ業ト致シマシテモ十分ニ其機能ヲ發揮スルコトガ出來ナデイノアリマス、又知識ノナイトモノハソレ等ノ信託ノ名前或ハ甘言ニ迷ハサレテ財產ヲ委託シマスト云フト遂ニハ其爲ニ不事ノ損害ヲ蒙リ、獨り個人ニ損害ヲ與ヘルノミナラズ、經濟社會ニ非常ナ惡イ影響ヲ及ボスト云フ風ナコトガ起フテ來

ルト云フコトノ虞レガ非常ニ強イノデアリマス、ソレ故ニ
日ニ於キマシテマダ、其弊ノ餘リ著シクナイ時ニ當テ先ツ
此司法省ノ政府委員カラ御説明申上ゲマシタヤウナ信託法
ヲ制定シテ此信託ノ法律關係ヲ明ニシマスルト同時ニ是等
ヲ營業イタシマスル所ノモノノ、營ム所ノ業務ノ本質ヲ明
ニシテ、即チ信託會社ノ本質ヲ明ニシテ其向フ所ヲ明カニ
スル、之ニ對シテ相當必要ナ監督、即チ受益者ヲ保護スル
ニ付キマシテ必要ナ所ノ監督取締ノ規定ヲ設ケルト云フ
コトガ目下ノ急務デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、ソ
レ故ニ茲ニ其目的ヲ以テ信託法案ヲ提出イタシタ次第デア
リマス、ソレ等ノ規定ノ内容ニ付キマシテ詳シイコトハ又
御質問等ニ應ジマシテ十分ニ御説明ヲ申上ガルノデアリマ
スガ、先ツ規定ノ重ナル點ニ付キマシテ少シク御説明ヲ申
上ゲテ見タイト思フノデアリマス、業法ノ第一ノ重ナル點
ハ第四條ニ規定シテ居ルノデアリマス、即チ信託會社ガ信
託ノ引受ヲ爲シマスル所ノ財產ノ種類ヲ制限イタシタノデ
アリマス、是ハ信託法ニ依リマスト云フト、先程モ御説明ヲ
申上ゲマシタ通り、苟クモ權利ノ移轉設定ヲ爲シ得ルモノ
デアリマスレバ、諸リ財產權ニアリマスレバ信託ノ目的ニ
成リ得ルノデアリマスガ、此信託ノ引受ヲ營業ト致シマス
ル信託會社ニ於キマシテハ其目的ヲ制限ヲスルト云フコト
ガ必要ニアラウト考ヘルノデアリマス、ソレハソレ等ノ制
限ハコヨニ四條ニ列記イタシテ居ルノデアリマスガ、大體
是等ノ制限ハ信託會社ガ營ミマシテ將來發達ノ見込ノアル
モノ、即チ信託會社ノ營業トシテ最モ適當デアリ、又實際ニ
於テ行ハレ得ベキモノヲ標準ニ致シタノデアリマシテ、又
之ヲ營ミマスニ付キマシテ危險ヲ伴フ虞ガ少イ、從ツテ他ニ
害ヲ及ボスト云フ風ナ危險ノ虞ノ少イト云フモノヲ選ンダ
モノデアリマス、又監督ヲ致シマス上ニ於キマシテモ、十分ニ
シタノデアリマス、先ツ第一ニ其認メナカッタモノカラ先キ
ニ御話ヲ申上ガテ見タイト思フノデアリマスガ、茲ニ列擧
テコヨニ記載イタシタノデアリマス、即チ之ヲ言換ヘマス
レバ危險ノ伴ヒ得ベキモノト云フモノヲ認メナイコトニ致
ノデアリマス、又監督ヲ致シマス上ニ於キマシテモ、十分ニ
シタノデアリマス、先ツ第一ニ其認メナカッタモノカラ先キ
ニ御話ヲ申上ガテ見タイト思フノデアリマスガ、茲ニ列擧
テアリマスレバ、漁業ヲ營ムト云フ風ニ或事業ヲ營ムト云
フ權ト云フ風ナ財產權デアルノデアリマスガ、是等ノモノハ
船舶ニ付キマシテハ船舶ヲ以テ運送業ヲ營ム、工業權デア
リマスレバ之ニ依テ信託ヲ受ケマシテ工業ヲ營ム、漁業權
ニ洩レテ居リマスモノハ船舶デアルトカ、或ハ工業權漁業
ニ勿論受益者ガ其損害ヲ負擔スルト云フコトハ勿論デアリ

マスケレドモ、財産者ノ關係カラ見マスト云フトソレ等ノ使
用ノ結果財産者ニ對シテ負擔シタ所ノ債務ニ付キマシテハ
勿論自己ノ個有財産ヲ以て之ニ當ラナケレバナラヌノデア
リマシテ、隨テ假ニ信託ノ管理ガ失當ナカッタ致シマ
シテモ會社ノ基礎ニ影響ヲ及ボス度ガアルノデアリマス、
隨テ他ノ信託ノ財產ニモ影響ヲ及ボスノデアリマスカラ、
他人ノ信任ニ基イテ、財產權ヲ自己ノ名ニシテ之ヲ管理維
持シテ行カウト云フ業務ヲ本體ト致シマスル會社ニ於キマ
シテハ左様ナ危險ノ業務ヲ營ムト云フコトハ極メテ不適當
デアラウト云フ考ヲ持テ居リマス、是ハ能ク例ニ引カレマ
スル販米利加等ニ於キマシテモ信任ニ基ク所ノ受託者ノ如
キモノハ危險ナ業務ニ近ヅクベキモノノデナインソレ等ハ例ニ
ハ或ハ保證トカ色ゝナモノガ舉ゲテアリマスヤウデアリマ
スガ、サウ云フ論ガ一般ニ此頃行ハレテ居ルヤウニ聽イテ
居ルノデアリマス、サウ云フ趣意カラ致シマシテ、是等ノ信
託ノ目的ト成リ得ベキ財產權ノ内カラシテ左様ナモノハ除
キマシタ、ココニ列記イタシマシタ所ノモノニ限リマシタ
次第デアリマス、此内デ先づ第一ニ此金錢デアリマスガ、金
錢ハ隨分信託ノ目的ト致シマシテハ過去ニ於テモ嚴格ナル
意味ノ信託ト云フコトハ申サレヌカモ知レナインデアリマ
スケレドモ、所謂信託受益者ノ仕事ト致シマシテハ隨分金
錢ノ信託ト云フコトガ行ハレタノデアリマス、將來ニ於キ
マシテモ是等ハ最モ發達ヲ期待シ得ベキモノト考ヘテ居ル
ノデアリマス即チ相當ノ機關ヲ持テ居リテ之ヲ銀行ニ預ケ
テ其利子ヲ收得スルコトガ無論アリマセウ、其運用ニ伴フ
所ノ危險ト云フモノガ伴ヒマスガ、併シ其運用ニ依テ得タ
所ノ利益ヲ全部ヲ收得スルト云フ希望ヲ以チマシテ、之ヲ
信託會社ニ信託スルト云フコトハ將來ニ於テ隨分行ハレル
コトト考ヘルノデアリマス、是等ノ金錢ノ信託ト云フモノ
ニ付キマシテハ往々銀行ノ預金ト類似シテ參ルノデアリマ
シテ、銀行トノ預金トノ間ニドウ云フ區別ガアルカト云フ
事ハ能ク問題ニナルノデアリマスガ、銀行ノ預金ト信託サ
レタ所ノ金錢ト云フモノトハ其本質ニ於テ經濟上ノ性質ニ
於キマシテ大ニニ異テ居ルト考ヘテ居ルノデアリマス、先
程モチヨット申シマシタヤウニ所謂信託會社ニ參リマス所
ノ財產ハ社會ノ靜的資金デアル、銀行ニ參リマスモノハ所
運用イタスノデアリマス、之ヲ運用スルトセザルトハ全空
銀行ノ自由ニアルリデアリマス、銀行ハソレヲ運用スペキ
義務ヲ持テ居ルモノハナインデアリマシテ、唯其預金ニシテ、
對シテ一定ノ利息ヲ拂ヘバソレデ宜シイノデアリマス

ガ、信託財産タル金錢ハ信託會社ガ之ヲ運用スベキ即チ
善良ノ管理者ノ注意ヲ以テ之ヲ管理運用スル所ノ義務ヲ
負ウテ居ルノデアリマス、サウシテ又預金ニ於キマシテ
モ一定ノ利息ヲ拂ヘバ宜イノデアリマスルガ信託財產
タル金錢ニ付キマシテハ其運用ニ依リテ出マシタ所ノ利益
ノ全部ヲ受益者ニ收メナケレバナラヌ、唯必運用ニ付キマ
シテ一定ノ手數料ヲ取得スルニ過ギナインデアリマス、ソ
レハ性質上大ニ異ナツテ居ルト考ヘルノデアリマス、從
テ是ヲ管理運用シテ行キマス上ニ於テ當然銀行ノ預金トハ
異ナルノデアリマシテ、即チ之ヲ別個ノ整理ヲシテ帳簿等
ニ於キマシテハ別個ニ之ヲ處理致シマシテ、今日其財產方
ドウ云フ風ニ變形運用サレテ居ルカト云フコトガ一目瞭然
シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、左様ニ此銀行預
金ト金錢ノ信託ハ其性質ヲ異ニシテ居リマスルカラ從ツテ
之ニ付キマシテハ命令ヲ以チマシテ相當ナル此制限ヲ設ケ
マシテ金錢信託ニ付キマシテハ、其信託致シマスル所ノ期
間ニ付キマシテ、其最短期間ヲ相當長キ期間ヲ定メタトイ
云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、デ金錢ニ付キマシテモ
……一口ノ金額ニ付キマシテモ、銀行ノ如ク、或ハ零碎ノ金
ヲ預リ或ハ動的資金ヲ預ルノデナインデアリマスルガ、相
當纏々タ金ヲ預ルベキ性質ノモノノデアルカラシテ一口ノ最
低金額ヲ命令ヲ以テ制限ヲ致シタイト云フ考ヲ持ツテ居ル
ノデアリマス、ソレカラ此金錢信託ヲ致シマスル場合ニ於
キマシテ、大體三種ノ方法ガアルダラウト考ヘルノデアリ
マス、即チ運用ノ方法ヲ何等指定スル所ナラ、會社ニ一任ス
ル場合、又ソレラノ運用方法ヲ指定スル場合、或ハ之ヲ有價
證券ニ適用シテ吳レ、或ハ之ヲ動産ニ運用シテ吳レト云フ
ヤウナ風ニ指定ヲスル場合、又更ニ進ンデ之ヲ指定シテ、之
ヲ以テ東京取引所ノ株ヲ買ツテ運用シテクレト云フヤウナ
コトガアルト思フ、是等ノ何カ指定ノ利益ヲ以テ會社ニ一
任シタ場合ハ信託法ノ第二十一條ニ依リマシテソレガ管理
運用ニ付キマシテ、相當ナ制限ヲ命令ヲ以テ設ケラルコ
トニナルノデアリマス、ソコデチヨット前ニ十條ニ……顛倒
致シマシタガ、第四條ノ制限ハ信託ノ引受ヲ致シマスル際ニ
ハ、財產ヲ制限致シタノデアリマシテ、引受ヲ致シマシタ後
ニ、ソレヲ運用シテ歸屬スル財產ニ付テノ制限デハナイン
デアリマス、ソレ故ニ茲ニ列擧致シテ居リマスルモノハ、僅
用ノ方法ヲ採リ、指定シ若クハ特定シ得ルト云フコトハ勿
論デアリマス、是等ノ管理運用ニ付キマシテハ、特ニ此業務
ノ種類方法ヲ定メサセル、之ニ對シ會社ニ認可ヲ致ス考ヲ

持ツテ居リマス、其認可ノ際ニ相當ニ對シテハ、制限ヲ設
ケル積リデアリマシテ唯信託者ガ希望デアルカラシテ、之
ヲ運用スル……ドウ云フ風ニデモ運用スルト云フコトハ許
シナイ積リデアリマス、相當ノ制限ヲ設ケテ、所謂危險ノ伴
テ居ルマスルノデアリマス、併セテソレヲ御説明申上
ゲタイノデアリマスルガ、即チ九條デアリマス、金錢ヲ信託
致シマスル際ニ、例ヘバ茲ニ十万圓信託ヲシテ、之ヲ五年間
運用シテ每年ソレカラ……金融カラ得タ所ノ利益ヲ、毎年
之ヲ受益者ニ給付シテサウシテ五年ノ後ニ至ラ、十万圓ヲ
受益者ニ給付シテ受益者ニ給スルト云フ風ナ場合モアリマ
シテ、サウ云フ風ニ金錢ノ信託ヲシテ、サウシテ受益者ニ歸
屬シマスル場合ニモ、金錢デ行クト云フ風ナ金錢主義カラ
ラ、之ヲ申シタイト思ウテ居ルノデアリマス、其運用方法ヲ
特定シナイ、先程モ申シマシタ通り東京ノ取引所ノ株ヲ買
テクレト云フヤウナ特定ヲシテ居ルモノニ付テハ、勿論信
託ノ本旨ハ立替カラシテ、損益ハ共ニ受益者ガ負擔ス
ル、損ガアッタナラバ受益者ガ損ラシ、益ガアッタナラバ益ノ
全部ヲ受益者ガ得ルト云フコトハ信託ノ本質デアルカラ特
定ヲ持ツテ使ツテクレト云フ時ニハ、勿論ソレガ爲ニ相當ノ
注意ヲ以テ信託會社ガ運用イタシマシク拘ハラズ、損
失ノアリマシタ時ニハ是ハ受益者ニ歸屬セシメル、其損ヲ
負担セシメルト云フコトハ當然デアラウト思ヒマスガ、左
様ナ特定ヲシナカッタ場合ニ於キマシテハ、會社、受益者等
ニ一定ノ利益歩合ヲ保證スル、又元本ヲ保證スルト云フコ
トハ、隨分從來カラ行ハレテ居ルコトデアリマシテ、之ヲ將
來ニ於キマシテモ、斯ノ如キ方法ヲ認メマスルト云フコト
ハ、相當必要デアラウト云フ考ヲ以チマシテ、九條ノ規定
ヲ設ケタノデ、即チ今申ス様ナ運用法ヲ特定セズ、金錢信託
ニ限リマシテ、信託行爲ヲ以テ財產ヲ信託致シマスル際ニ
一定ノ利益ヲ生ジナクテモ、或程度マデ會社ガ之ヲ保證ス
ルト云フコトノ契約ヲイタスノデアリマス、之ヲ信託ノ本
質カラ申シマスレバ、先程申シマシタヤウニ損害共ニ利
益者ニ歸屬スルト云フコトガ本來ハ同一デアルカラ、之
ヲ保證スルコトハ、信託ノ本質ニ反スルト云フ處ガアルノ
デアリマシテ、ソレ故ニは信託ノ行爲ニ附隨シテ、別個
ノ契約ヲ致シタモノト見レバ、何モ差支ナイコト考ヘ
マス、特ニ左様ナ疑問ヲ生ズル處ガアリマス、亞米利加等ニ於
テモ色々附隨シタ業務ヲ營ンデ居ルノデアリマスカラ、或
ル種類ノ業務、所謂或ル種類ノ附隨業務ニ付キマシテハ、之
ヲ致スカト云フト、今日ノ信託會社ノ實際カラ申シマシテ
モ、各種ノ業務ヲ營ンテ居ルノデアリマス、亞米利加等ニ於
テモ色々附隨シタ業務ヲ認メタノデアリマスカラ、之
ヲ認メマスト云フト、モ會社ノ基礎ニ危険ヲ及ボスコトガ
ナ、會社ノ發達ヲ促ス所以デアルト考ヘマシテ、茲ニ掲ガ
モノヲ選ンデ居ルノデアリマス、其他ノ者ニ付キマシテハ、
亞米利加等ニ行ハレマスル附隨業務ニ付キマシテモ大體講
究ヲ致シテ居リマス、是ハ我國ノ法制ノ上ニハ直ナニ行ヒ
得ナイモノガアル、或ハ會社ノ株式登録ノ事務トカ、或ハ後

ヲ保證シマスル、損ニ付キマシテハ命令ヲ以テ相當ナ制限
ヲ設ケマシテ之ニ付キマシテハ銀行ノ預金ノ利率ヨリモ、
其當時行ハレナ居ル……普通ニ行ハレマスル預金ノ利率ヨ
リモ相當低キ程度ニ於テ其保證ノ歩合ハ最高ノ歩合ヲ限定
テ居ルマスルノデアリマスカラ、併セテソレヲ御説明申上
ゲタイノデアリマスルガ、即チ九條デアリマス、金錢ヲ信託
致シマスル際ニ、例ヘバ茲ニ十万圓信託ヲシテ、之ヲ五年間
運用シテ每年ソレカラ……金融カラ得タ所ノ利益ヲ、毎年
之ヲ受益者ニ給付シテサウシテ五年ノ後ニ至ラ、十万圓ヲ
受益者ニ給付シテ受益者ニ給スルト云フ風ナ場合モアリマ
シテ、サウ云フ風ニ金錢ノ信託ヲシテ、サウシテ受益者ニ歸
屬シマスル場合ニモ、金錢デ行クト云フ風ナ金錢主義カラ
ラ、之ヲ申シタイト思ウテ居ルノデアリマス、其運用方法ヲ
特定シナイ、先程モ申シマシタ通り東京ノ取引所ノ株ヲ買
テクレト云フヤウナ特定ヲシテ居ルモノニ付テハ、勿論信
託ノ本旨ハ立替カラシテ、損益ハ共ニ受益者ガ負擔ス
ル、損ガアッタナラバ受益者ガ損ラシ、益ガアッタナラバ益ノ
全部ヲ受益者ガ得ルト云フコトハ信託ノ本質デアルカラ特
定ヲ持ツテ使ツテクレト云フ時ニハ、勿論ソレガ爲ニ相當ノ
注意ヲ以テ信託會社ガ運用イタシマシク拘ハラズ、損
失ノアリマシタ時ニハ是ハ受益者ニ歸屬セシメル、其損ヲ
負担セシメルト云フコトハ當然デアラウト思ヒマスガ、左
様ナ特定ヲシナカッタ場合ニ於キマシテハ、會社、受益者等
ニ一定ノ利益歩合ヲ保證スル、又元本ヲ保證スルト云フコ
トハ、隨分從來カラ行ハレテ居ルコトデアリマシテ、之ヲ將
來ニ於キマシテモ、斯ノ如キ方法ヲ認メマスルト云フコト
ハ、相當必要デアラウト云フ考ヲ以チマシテ、九條ノ規定
ヲ設ケタノデ、即チ今申ス様ナ運用法ヲ特定セズ、金錢信託
ニ限リマシテ、信託行爲ヲ以テ財產ヲ信託致シマスル際ニ
一定ノ利益ヲ生ジナクテモ、或程度マデ會社ガ之ヲ保證ス
ルト云フコトノ契約ヲイタスノデアリマス、之ヲ信託ノ本
質カラ申シマスレバ、先程申シマシタヤウニ損害共ニ利
益者ニ歸屬スルト云フコトガ本來ハ同一デアルカラ、之
ヲ保證スルコトハ、信託ノ本質ニ反スルト云フ處ガアルノ
デアリマシテ、ソレ故ニは信託ノ行爲ニ附隨シテ、別個
ノ契約ヲ致シタモノト見レバ、何モ差支ナイコト考ヘ
マス、特ニ左様ナ疑問ヲ生ズル處ガアリマス、亞米利加等ニ於
テモ色々附隨シタ業務ヲ認メタノデアリマスカラ、之
ヲ認メマスト云フト、モ會社ノ基礎ニ危険ヲ及ボスコトガ
ナ、會社ノ發達ヲ促ス所以デアルト考ヘマシテ、茲ニ掲ガ
モノヲ選ンデ居ルノデアリマス、其他ノ者ニ付キマシテハ、
亞米利加等ニ行ハレマスル附隨業務ニ付キマシテモ大體講
究ヲ致シテ居リマス、是ハ我國ノ法制ノ上ニハ直ナニ行ヒ
得ナイモノガアル、或ハ會社ノ株式登録ノ事務トカ、或ハ後

見人ノ事務デアルトカ或ハ其責任者ノ財産ノ管理ト云フヤ
ウナ事ハ我國ノ法制上認ラレテ居ラスト考ヘルノデアリマ
シテ、サウ云フ風ニ法制方認メテ居ナイ、又其他ノモノハ今
日實際ニ行ハレテ居ラナイモノデアルシ、若クハ實際ニ其
必要ノナイト考トタモノガ省カレテ居ルニ過ギナイノデア
リマシテ、大體ハ茲ニ採用サレテ居ルト申シテ宜シイカト
考ヘテ居ルノデアリマス、之ニ付キマシテハ殊ニ當業者ア
タリカラモ色々陳情モアリ、意見モ聽イテ居リマスガ、ソレ
等ニ付テモ十分ニ考慮致シマシテ、認ムベキモノハ茲ニ採
用ヲ致シテ居ルノデアリマス、當業者ノ希望ノ中デ採用致
サナカッタモノニ付キマシテハ、又適當ノ機會ニ於テ其理由
ヲ申上ゲテ見タイト考ヘテ居ルノデアリマス、此中デ債務
ノ保證ニ付テハ命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設ケタイト考ヘ
テ居ルノデアリマス、是ハ會社ガ自己ノ資力ヲ顧ミズ安リ
ニ多額ノ保證ヲ致スト云フ事ハ非常ナル危険ヲ生ジ、延イテ
ハ經濟界ニ惡イ影響ヲ及スト云フ結果ニナルノデアリマ
カラ、之ニ付キマシテハ會社ノ資本トカ、或ハ其資本ニ對ス
ル擔保ノ種類等ニ依リマシテ營ミスル信託業、其
附隨ノ業務ソレ丈ヶニ限ルノデアリマシテ他ノ業務ヲ營
口ニ付テノ金額ノ制限、總額ニ付テノ制限トカノ相當ノ制
限ヲ命令ヲ以テ定メタイト云フ考ヘヲ有ニテ居ルノデアリマ
ス、幸ニ信託會社ハ此四條ニ依リマシテ營ミスル信託業、其
リマス銀行ノ業務デアリマスルトカ、銀行ノ業務ト信託會
社ノ業務ト云フ者ハ前カラモ申上ダマスル通りニ非常ニ性
質ヲ異ニシテ居リマス、根本ニ於テ性質ヲ異ニシテ居リマ
ス、即チ其許シマセヌ兼業ノ主ナルモノハヨク問題ニナ
リ、大イニ異ニテ居ルコトハ私ガ申ス迄モナイトコトデアリマ
シテ、大體信託ノ財產ヲ銀行ノ一般ノ事務ニ用フルト云フコ
トハ時ニ其財產ニ危険ヲ生ズル處レガアルノデアリマス、
亞米利加等ニ於テモ信託會社ノ失敗ヲ致シマシタ多クノモ
ノハ、銀行ヲ兼ネテ居ルモノデアルト云フコトモ言ハレテ
居ルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマシテ、又弊害ノ方
ヲ考ヘマスト、自己ガ銀行ヲ同時ニヤッテ居リマスト、銀行
ノ業務ニ用ヒテ利益ノアツ時ニハ銀行ノモノノトスル、利益ノ
少イ時ハ信託ノモノトスルト云フコトモ想像スレバアリ得
ルノデアリマス、取締ノ上ニ於キマシテモ危険デアリマス
カラ、性質ガ違フノデアリマスカラ、是レハ其兼業ヲ許サナ
カツタ次第アリマス、唯此擔保附社債信託法ニ依ル信託
業務、是ハ前ニ司法省ノ政府委員カラモ申上ダマシタ
通リ大體信託ノ中ニ這入ルモノデアリマスカラ、是ハ信
託ノ擔保附社債信託法ニ依テ認可ヲ受ケマスレバ、是

ハ兼業スルコトガ出来ルヤウニ致シタノデアリマス、ソレカラ此信託會社ハ他人ノ信任ニ基イテ他人ノ財産ヲ預カルノデアリマスカラ、信託法ニ依リマシテ各種ノ義務ヲ負擔シテ居ルノデアリマス、是等ノ義務ヲ擔保イタシマス趣旨ヲ以テ七條ニ資本ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託ヲスル、サウシテ之ヲ以テ受益者ガ他ノ債權者ニ先立ツテ辨済ヲ受クルノ権利ヲ有セシメテ居ルノデアリマス、是ハ丁度貯蓄銀行等ニ於テ供給ヲスルト同ジヤウナ趣旨ニ出テ居ルノデアリマス、其他會社ノ一般ノ資產ト云フモノハ、拂込資本金、積立金ノ一般ノ資產ト云フモノハ、矢張リ此會社、即チ受託者トシテ其信託ノ義務ニ反シテ信託財產ニ損害ヲ及ボシマシタ時ニ之ヲ補填スル所ノ義務ヲ負フテ居ルノデアリマスカラ、ソレ等ノ一般的ノ擔保ノ性質ヲ會社ノ資產ト云フモノハ有ツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ會社ノ資產ハ確實ニシテ置キ必要ガアルノデアリマス、其爲ニ之ニ付キマシテハ其運用ヲ制限イタシマシテ、一條ニ是ガ制限ヲ設ケタノデアリマス、是ハ貯蓄銀行ニ比較イタシマスレバ貯蓄銀行ヨリハ非常ニ寛ニナツテ居リマス、ソレハ貯蓄銀行ノ場合ニ於キマシテハ運用スル資產ハ、即チ貯蓄預金其モノガ其一部ヲ構成シテ居ルノデアリマス其資產ヲ失ヒマスレバ、即チ預金ヲ支拂フコトガ、出來ナイト云フコトニナルノデアリマス、然ルニ信託會社ノ場合ニ於キマシテハ、信託會社ノ資產ハ是ハ擔保ノ性質ヲ持テ居ルモノニアリマス、信託財產ト云フノハ別箇ニ管理整理サレテ居ルノデアリマスカラ、万一ノ場合ノ擔保ニナルノデアリマスカラシテ、幾分カ貯蓄銀行或ハ其運用ノ範圍ヲ廣メマシテ、大イニ緩ニ致シテ居ル次第ニアリマス、之ニ付キマシテモ衆議院ニ於キマシテ修正ノ意見ガアリマシタ、之ニ同意ヲ致シタノデアリマスガ、是等ハ動産ニ付キマシテハ動産ノ種類ニ付テノ主務大臣ノ認可ヲ要スル、不動産等ニ付キマシテモ十分ニ監督ヲ致シマシテ、其運用ヲ制限イタシマシタ目的ニ副フ様ニ致シタイ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ信託會社ニ於キマシテハ此信託法ニ對スルーツノ例外ヲ設ケテ居ルノデアリマスガ、是ハ即チ十條ニ規定シテ居ルノデアリマシテ、受託者ハ信託財產ヲ個有財產ニスルコトガ出來ナイト云フコトハ、原則トシテ信託法ニ認メラレテ居ルノデアリマス、只裁判所ノ許可ヲ受ケマシタ場合ニハ出來ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、信託ノ引受ヲ營業トシテ居リマス所ノ會社ニ付キマシテハ、或モノニ付キマシテハ隨分此固有財產ニスル必要ガアリ、又是ガ便利ナ場合ガアルノデアリマス、即チ前ニ申シマシタ所謂金錢信託、金錢ヲ信託シテ此金錢ヲ拂ツテ貰其所ノ金錢信託、其場合ニ於キマシテ途中ニ之ヲ運用シテ、是

ハ有價證券ナリ或ハ其他ノモノニナッテ居リマス場合ニ於テ其期限ガ出マシタ時ニ之ヲ金ヲ換ヘテ拂ハナケレバナラヌト云フ爲ニ、態々之ヲ競買ニスルトカ、市場ニ賣出シテ之ヲ金ニ依テ拂ハナケレバナラヌト云フコトガ起ルノデアリマス、其場合ニ於キマシテ是ガ取引所ノ相場ガアルモノデアリマシタナラバ、市場ニ態々賣出シテ、手數料ヲ拂ッテ態々賣出シテ金ニハシナクトモ自分ノ會社ガ、即ち自分ノ個有財産ニスル、之ヲ通俗ニ申シマスレバ、自分方買フコトニナルノデアリマス、ガ自分ノ固有財産ニスルト云フコトニ致シマシテモ、別ニ弊害ガナイト考へマシテ、且ツ便利デアルト考ヘマシテ、特ニ此信託會社ニ對スル例外ヲ認メタノデアリマス、只之ヲ何時デモサウ云フコトガ出來ルト云フ事ニ致シマスルト、期間ノ中途ニ於キマシテ他段ノ下タ時ニ自分ノモノニシテ置クト云フ風ナ事ガ起リ得ルノデアリマスカラ、是ハ信託法ニ依テ定タ受益者ニ對スル債務ヲ履行スル時ニ限テ、即チ期間ノ満了、或ハ毎年一定ノ時ニ支拂フ其時期、其時ニ於テノミ之ヲ爲シ得ルト云フ事ニ制限ヲ致シタノデアリマス、ソレカラ尙ホ一ツ其例外ニナッテ居リマス者ハ此信託、個人ノ信託ニ付キマシテハ受託者が死亡シタナラバ信託ヲ終了スル、會社ニ付キマシテハ、其會社ガ解散ヲ致シマシタ場合ニ於テハ、信託ガ終了スルト云フコトニナッテ居ルノデアリマスガ、會社ガ合併ニ依リマシテ解散スルトカ、或ハ二ツ以上ノ會社ガ合併シテ新設シテ解散スルト云フ風ナ場合ニ於キマシテハ、個人ノ場合トハ異リマシテ會社ノ合併ハ特ニ信託ヲ終了セシムルト云フ必要ハ無イト考へマシテ、此例外ヲ十六條ニ設ケタノデアリマス、只此場合ニ於キマシテモ、會社ノ合併ニ付テ異議ヲ述べマシタ場合ニ於テハ、受益者ガ異議ヲ述べマシタ場合ニ於キマシテハ、其異議ヲ述べマシタ信託ニ付テハ之ヲ終了スルコトニ致シマシテ、信託法ノ原則ニ立チ居ルコトニナッテ居ルノデアリマス、其事ハ一般ノ此検査監督等ノ取締ノ規定等ニアリマシテ特ニ茲ニ御説明ヲ申上ゲルマデモナ事カト存ズルノデアリマス、而シテ是ガ施行ヲ致シマスルノハ、勅令ヲ以テ時日ヲ定メルコトニナッテ居ルノデアリマスガ、大體、幸ニ本案ガ本議會ヲ通過イタシマシテ、成立ヲ致シマスレバ、來年ノ一月一日ヨリ施行イタシタイト考雲フ附則トシテ規定ヲ設ケタノデアリマス、尙ホ御説明申續イテ信託ノ業務ヲ營ンデ居リマス者ハ、直チニ此資本金ヲ百万圓ト云フコトニ致スト云フコトモ困難ナ事情ガアラウト考ヘマシテ、五年間ハ二十五万圓以上デアレバ宜イト上ダルベキ點デ申シ落シテ居ル點ハ多々アルノデアリマスガ、是ハ後ニ他ノ機會ニ於テ私カラ進ンデ申上ゲマシテ、又

御質問ニ應ジマシテ其折々ノ御質問ニ對シテ御説明申上ゲルコトニ致シタノ事考ヘテ居ル次第アリマス、ソレカラ

擔保附社債信託法中ノ改正ハ、信託會社ガ此信託業法ニ依テ擔保附社債信託業務ノ免許ヲ受ケレバ、擔保附社債信託

ノ業務ガ出來ルト云フ事ニ致シタノアリマス、又擔保附社債信託法ニ依テ擔保附社債信託ノ營業ヲ営ンデ居ル者アリマス、此點ニ付キマシテハ本會議ニ於テモ御質問ガア、

モ亦此信託業法ニ依テ免許ヲ受ケレバ信託業ノ兼營方出来ルト云フ修正ヲ致シタノアリマス、只御承知ノ通り此

擔保附社債信託ノ業務ニ限り兼營ヲ許シテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ本會議ニ於テモ御質問ガア、

タト記憶シテ居リマスガ、何故ニ擔保附社債信託業ヲ銀行

ニ營ムコトヲ禁ジナカッタカト云フ御質問デアリマシタガ、

是ハ誠ニ其通リテアリマシテ、信託ノ業務ヲ銀行ノ業務ト區別シテ、其兼營ヲ認メナイ主義ヲ採リマシタ以上ハ、擔保附社債信託業ニ付キマシテモ、銀行ノ業務ニ兼營ヲ認メナ

イコトガ、主義一貫シテ居ルコトト思フノアリマシテ、ソレハ主義ニ於テ左様ニ考ヘテ居ルノアリマス、唯今日ノ現狀ニキマシテハ、擔保附社債信託業ヲ營ンデ居リマスモ

ノハ、銀行ニ限テ居ルノアリマス、此種ノ銀行ハ現在二十行アリマスガ、皆銀行業者デアリマシテ、銀行ノ經營ヲ致

シテ居ラヌ所ノ純粹ノ擔保附社債信託業ヲ營ンデ居ル所ノ會社ト云フモノハ今日無イノアリマス、ソレカラ今日ソ

レラノ銀行ニ兼營ヲ直チニ禁ジマシテ、サウシテ今アル所ノ信託會社ガ直チニ等ノ擔保附社債信託ノ業務ヲ引受ケルコトニナツテ、不都合ナイモノト考ヘマスルガ、此點ニ付

テハ未だサウ云フコトヲスルマデノ状況ニナツテ居ラヌヤウニ考ヘマス、ガ將來信託會社ガ發達致シマシテ立派ナルコトニナツテ、不都合ナイモノト考ヘマスルガ、此點ニ付

シテ此案ヲ追加イタシタ次第アリマス
○政府委員(松本重威君) 信託ノ制定ニ依リマシテ各附隨法ノ規定中ニ改正ヲ要スルモノガアリマス、改正ノ要點ヲ申上ゲタイト存ジマス、先づ以テ所得税ニ付テ申上ゲマス、

信託擔保附社債ハ信託補助ニ於テ受託者ガ所有シテ居ルモノニアリマスケレドモ、其財産カラ生ズル所得ハ結局受益者ノ所得トスルモノニアリマスカラ、經濟上ノ實體カラ見

マスト受益者ハ直接財産ヲ所有シテ居ルト同一ノ所得ヲスルモノニアリマス、テアリマスカラ所得税ヲ課シマス上ニ

於テハ受益者ガ信託ノ財産ヲ所有シテ居ルモノト看做シテ受益者ニ掛ケル、從フテ受託者及ビ依託者ニ對シテ課稅シナ

イト云フ事ニナリマス、受益者ガ信託財産ヲ所有シテ居ルモノト看做シテ、現行法ノ所得税ヲ課シマス結果ヲ

スカラ、現行法ノ所得税ヲ課シマス結果、先キノ如キ結果ヲ

ノト看做シテ、又更ニ受益者ナルモノハ受託者カラ收益ノ引渡シヲ

受ケマスカラ、受益者ニモ又其收益ニ對シテ所得税ヲ課サ

且其財產ノ所有者タル所ノ受益者ガ收得スルモノニアリマスカラ、現行法ノ所得税ヲ課シマス結果ヲ

スカラ、現行法ノ所得税ヲ課シマス結果、先キノ如キ結果ヲ

ノト看做シテ、又更ニ受益者ナルモノハ受託者カラ收益ノ引渡シヲ

受ケマスカラ、受益者ニモ又其收益ニ對シテ所得税ヲ課サ

ナケレバナラヌ事ニナル、即チ收益ニ對シテ二ツノ所得税ヲ

課サナケレバナラヌ事ニナル、所得税ノ改正案ニ於テ此場合ニ於テ受託者ニ對シテノミ課稅スル、即チ實際ニ適應セシ

ムルト云フ事ガ一ツアリマス、今一ツハ受益者ガ受託者ヨリ受ケマシタ所ノ所得ト云フ者ハ受益權ト云フ一ツノ債權

關係カラ生ズルモノニアリマスカラ、若シ現行稅法ヲ其儘ニ適用シマスト、信託財產ノ所得ノ如何ヲ問ハズ、其收入金全

部ニ對シテ課稅スル事ニナリマス、斯ノ如クシマスト受益者ガ直接ニ其財產ヲ所有シテ居ル場合ニ比較シテ甚ダ釣合

ガ取レヌコトニナツテ居ル併シ改正案ノ如ク受益者ガ直接

其財產ヲ所有シテ居ルモノト看做シテ、所得稅ヲ課シマス

ト、例ヘバ信託財產ガ用若クハ細アリマスト、満三年ノ平

均ニ依テ所得稅ヲ課スルトカ、株式デアルト其配當金ノ中カラ四割ヲ控除シテ課稅スル、財產アリマスレバ其財

キマンテ、只銀行ヲ兼營シテ居ラヌ所ノ者ニ限リマシテ、擔保附社債信託業法ニ依テ信託業務ヲ許シマシテ此案ヲ提

出イタシタ次第アリマス、其他日本興業銀行法中改正法

律案、臺灣銀行法改正法律案竝ニ北海道拓殖銀行改正案ニ付テ、本議場ニ於テ大藏大臣カラ御説明申上ゲマシタノテ、

大體ハ盡シテ居リマス、今日ノ信託業務シテ居リマスモ、一般ノ信託業務ハ銀行ニハ兼ねナイト云フ主義デ、擔

保附業務、今日ノ信託ノ業務ト云フ様解釋デ色、ナ代理事務ヲ行ヒテ、居ル、ソレ等ノ銀行法ニハ法律ニ拘ダテ營ムヲ得ズト云フコトニナツテ居リマスガ、特ニ之ヲ認メル必要アリシテ、御手許ニ参考書ヲ差上ゲテアリマス、其趣旨カラ

兩所得ノ間ニハ勿論何等關係ノナイモノニアリマスカラ、從フテ此所得ハ合算イタシマセヌ、所得稅ヲ課スル上ニ於テ此兩所得ハ合算イタシマセヌ、又受託者ノ同居家族トノ所得トモ合算イタシマセヌ、即チ信託ニ依テ其所得ノミヲ別個ノモノトシテ稅率ヲ適用スルコトト致シマシタ、若シ同一ノ受託者ノ手ノ中ニ數個ノ信託ガアリマシタナラバ、是亦合算イタシマセヌ、別々ニ所得稅ヲ課スルト云フヤウナコトニ致シマシタ、又右申シマシタ通り受託者ヲ受益者トシテ此所得ハ合算イタシマセヌ、即チ受託者ガ所有シテ居ルモノニアリマスケレドモ、其財產カラ生ズル所得ハ結局受益者ノ所得トスルモノニアリマスカラ、經濟上ノ實體カラ見

マスト受益者ハ直接財產ヲ所有シテ居ルト同一ノ所得ヲスルモノニアリマス、テアリマスカラ所得稅ヲ課シマス上ニ

於テハ受益者ガ信託ノ財產ヲ所有シテ居ルモノト看做シテ受益者ニ掛ケル、從フテ受託者及ビ依託者ニ對シテ課稅シナ

イト云フ事ニナリマス、受益者ガ信託財產ヲ所有シテ居ルモノト看做シテ、現行法ノ所得稅ヲ課シマス結果ヲ

スカラ、現行法ノ所得稅ヲ課シマス結果、先キノ如キ結果ヲ

ノト看做シテ、又更ニ受益者ナルモノハ受託者カラ收益ノ引渡シヲ

受ケマスカラ、受益者ニモ又其收益ニ對シテ所得稅ヲ課サ

ナケレバナラヌ事ニナル、即チ收益ニ對シテ二ツノ所得稅ヲ

課サナケレバナラヌ事ニナル、所得稅ノ改正案ニ於テ此場合ニ於テ受託者ニ對シテノミ課稅スル、即チ實際ニ適應セシ

ムルト云フ事ガ一ツアリマス、今一ツハ受益者ガ受託者ヨリ受ケマシタ所ノ所得ト云フ者ハ受益權ト云フ一ツノ債權

關係カラ生ズルモノニアリマスカラ、若シ現行稅法ヲ其儘ニ適用シマスト、信託財產ノ所得ノ如何ヲ問ハズ、其收入金全

部ニ對シテ課稅スル事ニナリマス、斯ノ如クシマスト受益者ガ直接ニ其財產ヲ所有シテ居ル場合ニ比較シテ甚ダ釣合

ガ取レヌコトニナツテ居ル併シ改正案ノ如ク受益者ガ直接

其財產ヲ所有シテ居ルモノト看做シテ、所得稅ヲ課シマス

ト、例ヘバ信託財產ガ用若クハ細アリマスト、満三年ノ平

均ニ依テ所得稅ヲ課スルトカ、株式デアルト其配當金ノ中カラ四割ヲ控除シテ課稅スル、財產アリマスレバ其財

キマンテ、只銀行ヲ兼營シテ居ラヌ所ノ者ニ限リマシテ、擔

保附社債信託業法ニ依テ信託業務ヲ許シマシテ此案ヲ提

出イタシタ次第アリマス、其他日本興業銀行法中改正法

律案、臺灣銀行法改正法律案竝ニ北海道拓殖銀行改正案ニ付テ、本議場ニ於テ大藏大臣カラ御説明申上ゲマシタノテ、

大體ハ盡シテ居リマス、今日ノ信託業務シテ居リマスモ、一般ノ信託業務ハ銀行ニハ兼ねナイト云フ主義デ、擔

保附業務、今日ノ信託ノ業務ト云フ様解釋デ色、ナ代理事務ヲ行ヒテ、居ル、ソレ等ノ銀行法ニハ法律ニ拘ダテ營ムヲ得ズト云フコトニナツテ居リマスガ、特ニ之ヲ認メル必要アリシテ、御手許ニ参考書ヲ差上ゲテアリマス、其趣旨カラ

其財産ヲ贈與スルノト同一ノ結果ヲ來スコトニナリマスルカラ、相續稅法ニ於キマシテハ此信託ト云フモノヲ贈與ト同一ニ取扱フノ必要ガゴザイマス、ソレガ爲メニ一ツ委託格ヲ相續財產ニ加算スルコトニ致シテ居リマス、ソレカラ次ニ信託ノ利益ヲ與ヘラレタル者即チ受益權ヲ與ヘラレタル者ガ、委託者ノ推定相續人デアルカ又ハ分家ノ戸主又ハ家族デアリマシタナラバ、現行相續稅法ノ第二十三條ヲ適用シテ相續財產ニシテ相續ノ開始ガアタモノト看做シテ相續稅を課スルコトニ致シマシタ、尤モ此場合ニ於テ信託財產ガ不動産又ハ船舶デアリマスレバ、現行相續稅法ノ例ニ依リマシテ相續稅ハ課セナイデ、別ニ登録稅ノ方ニ於キマシテ重イ稅ヲ課スルコトニ致シテ居リマス、而シテ受益權ノ價格ハ相續稅ノ決定ノ上ニ如何ニ認ムルカト云フ事ニ付キマシテハ、是ハ現行相續稅法ニ於キマシテ條件附ノ此期限或ハ存續期間ノ複雜ナル權利ノ算定方ヲ規定シテアリマスカラ、ソレノ同一方法ニ依ルト云フコトニ致シマシタ、其次ハ登錄稅ニ付テ申シマス、信託ニ關係シテ登錄スルコトニ付キマシテハ、通ジテ信託其モノノ登記又ハ登錄ト、信託ニ依ル財產權ノ移轉ノ登記斯ウ云フ登錄ノニツアリマス、而シテ信託スルモノノ登記又ハ登錄ニ付キマシテハ比較的輕イ稅率ヲ課スルコトト致シマシタ、ソレカラ信託ノ結果財產權ガ移轉スル所ノ登記又ハ登錄ニ付キマシテハ、普通財產權ノ移轉ヨリ比較的重イ登錄稅ヲ課スルコトニ致シマシタ、但シ不動産又ハ船舶ニ付キマシテハ信託行為デ共財產ノ贈與ヲ致シマシテモ、相續稅ヲ課セナイト云フコトハ先程中上ゲタ通りデゴザイマスカラ、其補足トシテ登錄稅ノ方ニ於テ比較的高イ稅率ヲ以テ、恰モ此普通ノ場合ニ於テ不動產又ハ船舶ヲ贈與シタモノト同様ニ取扱フコトニ致シマシタ、ソレカラ信託ニ依ル財產權ハ先づ委託者カラ受託者ニ移轉シ次イデ又受託者カラ受益者ニ移轉シテ參リマスモノデゴザイマスカラ、普通ニ考ヘレバ其財產權ノ移轉ノアル度毎ニ登錄稅ヲ課スベキモノデアリマスケレドモ、先づ以テ受託者ガ財產權ヲ取得シマスノハ、元々受益者ノ爲ニシマスレバ、前後通ジテ一回ノ財產權ノ移轉ガアタニ過ギテナイト考ヘマス……デアリマスルカラ此信託ニ依ル財產權移轉ノ登錄稅ハ、委託者カラ受託者ニ移ル場合ハ課稅シナイト云フコトニ致シマシタ、尙ホ其今申上ゲル他ノ場

合ニ於キマシテ形 式的ニ財産 権ト移轉ヲ生ジマスケレ
ドモ、實質的ニ權利ノ移轉ガ無イモノト認メテ登録ヲ
課セナイト云フコトノ例外ヲ設ケマシタ即チソレヲ申上ゲ
マスレバ、委託者ガ信託行爲ニ依リテ信託ノ財産ヨリ生ズ
ル所受益權ハ勿論歸屬權ヲ享有スル、言葉ヲ換ヘテ申セ
バ信託利益ノ全部ヲ委託者ガ享受スルト云フ場合ニ於キマ
シテハ、單ニ受託者ヲシテ財產ノ保管ヲ爲サシムルニ
過ギナイコトデアッテ實質的ニハ更ニ權利ノ移轉ト云フ
事ヲ認ムベキ點ガナインデアリマスカラ、斯ノ如キ信託
行爲ニ依リテ委託者ヨリ受託者ニ財產 権ノ移轉ヲ爲ス時
ニ登録税ヲ課セナイ、斯様ニ致シタ、其次ギニ受益者又ハ
歸屬權利者ガ財產 権ヲ取得イタシマス場合ニ於キマシ
テハ、前ニモチヨット申上ゲマシタル通り、事實上ニ於テモ
ハ受託者ヲ以テ一定期間保管サレテ居ル所ノ財產ヲ自分
ノ手ニ取戻スト云フコトニ過ギナイモノト認メマスカラ、其
此受益者又ハ歸屬權利者カ其財產 権ヲ取得スル時ニ登録税ヲ
課税セメント云フコトニ致シマス、其次ニ受託者ノ更迭ノ場
合ヲ考ヘテ見マスト、矢張リ受託者が更迭ノ時ニ於テモ、形
式上財產 権ノ移轉ガ生ジテ來ルノデアリマス、併ナガラ其
更迭タルヤ單ニ管理者ガ變更スルニ過ギナイモノト認メマスルカラ、新ラ
シキ受託者ガ財產 権ヲ取得シタ場合ニ於テモ、登録税ヲ課
セナイ、斯様ニ致シタ次第ニアリマス、次ニハ印紙稅ニ付テ
申上ゲマス、一體信託行爲ニ付テ作製イタシマス所ノ證書
ハ現行印紙稅法ノ所謂財產 権ノ移轉消滅等ヲ證明スルモノ
デアリマスカラシテ、印紙稅法ノ規定ニ依リマスト何等此
際特別ノ規程ガナインリハ、現行印紙稅法第一條ニ依リテ
シテ、其證書ニ記載シタ金額ニ對シテ、一万分ノ五ノ割合ヲ
以テ、印紙稅ヲ收メナケレバナラメト云フ譯ニナッテ居リマ
ス、ケレドモ元來此信託行爲ニ依リ財產 権ノ得喪ハ、普通ノ
賣買贈與ト云フヤウナ普通ノ法律行爲ニ依ル財產 権ノ得喪
トハ違ヒマシテ、其移轉ハ單ニ形式ニ止ムテ其實質ニ於テハ
益者ニナツテ居ルヤウナ場合ニ於キマシテハ、實質上ニ於テ
受託者ハ受益者ノ爲ニ管理シテ居ル、又ハ受益者ハ其財產
ハ殆ド何等財產 権ノ移轉モナイヤウナモノト認メマスカラ
ヨリ生ズル所ノ收益ヲ受取シ、又ハ將來ニ財產ヲ取得スル
マスカラ、是ハ賣買贈與ト同一ニ看做シテ、其證書ニ記載シ
テ居ル金萬ノ万分子ノ五ノ稅ヲ課スルト云フコトハ、聊カ酷
ニ失スル嫌ガアルト認メマス、而シテ此信託行爲ノ内容ヲ
伺ヒマスレバ、其實質ガ或ハ定期權ノ契約ヲスルト云フ法
律行爲ニ稍ニ類似スル點モアリマスカラ、印紙稅法ノ見地

政府委員

司	委員長	副委員長	委員
法	子爵八條	伯爵兒玉	秀雄君
省	男爵長松	賀原	通敬君
民	男爵樺山		
事	男爵藤村		
局	加太		
長	倉知		
長	小山		
行	安田		
次	池田		
官	黒田		
長	松本		
局	大藏省主税局長		
長	大藏省銀行局長		
事	司法次官		
局	司法省民事局長		

大正十一年三月三十一日印刷

大正十一年四月一日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局